

サイレージ利用のための夏播き麦の栽培法（予報）

高山澄雄・田村紘吉・十川幸一

（宮崎県総合農業試験場）

早期水稲あと及び転換期利用のための飼料作物の導入として作期を異にした夏播き年内収穫の技術を確認する目的で、昭和52年度サイレージ利用のための夏播き麦の栽培と利用法について検討したので予報として報告する。

(1) 目的

実用形質の利用巾が広く高品質の飼料生産を目的とした飼料用大麦の夏播き栽培法を検討し、その利用技術の確立を図る。

(2) 試験方法

1) 試験ほ 転換期

2) 供試品種 カワホナミ（飼料用大麦）

3) 播種期 8月29日・9月14日・9月19日

4) 栽培法 播種量 1 kg/a

播種様式 畦巾50cm, 播巾10cm, 条播
施肥量(1 g/a) 化成肥料(10~16~
16) 5 kg全量元肥,
苦土石灰15kg, 厩肥
100kg

5) 刈取期 穀実用 完熟期

サイレージ用 乳熟期, 糊熟期, 黄熟期

6) 試験規模 播種期当り面積 30m² (6m×5m)穀実収量調査面積 9m² (3m×3m)サイレージ用面積10m² (2m×5m)

(3) 試験結果及び考察

1) 初期生育及び障害 各区とも発芽は良好で生育は播種期の遅い区ほどよかったが高温のため徒長傾向がみられた。また高温によると思われる立枯れが9月下旬, ほ場の過湿部に発生し, とくに8月29日播きの発芽の早い株の障害が大きかった。病害虫は斑点病, ふ枯病, アブラムシが発生したが収量に影響を及ぼす程ではなかった。

2) 出穂期及び成熟期 出穂期は8月29日播きが播種後59日目, 9月14日播き57日, 9月19日播き59日と, いずれも60日以内に収穫期をむかえたが短期間の生育のため草丈が短かく分株は少なかった。また出穂期から成熟期までは気温が低下するため登熟が進まず同一播種期に

おいても区的位置により一定しなかった。

3) 収量 穀実の収量は早播き程多収でa当たり8月29日播き25.3kg, 9月14日播き23.1kg, 9月19日播き22.5kgであり, 見かけの品質も良好で千粒重も普通栽培のものに比べ重く, 充実した種子が得られた。またホールクロップ用として茎葉を含めた収量は第1表の通りである初期生育時が高温のため徒長しまた生育期間が短いこともあって出穂が早い程長は短かかった。収量は遅播き程多収であった。

4) サイレージの品質 ホールクロップサイレージとして, 乳熟期, 糊熟期, 黄熟期に刈取り調製した。このステージに達した日数はそれぞれ79日, 84日, 100日であった。詰込み後の69日目に開封調査した結果は第2表の通りで, いずれも良品質のものであった。以上の結果カワホナミを用いた夏播き麦の栽培の播種期は実取り栽培で9月5日頃。ホールクロップ用としての栽培では9月20日頃までは播種期の幅があるものと思われた。

第1表 サイレージ詰込み時の生育特性及び収量 (12月7日調査)

項目 播種期	生育 ステージ	生育特性			部位割合 (DM%)			生 草 量 kg/a	風 乾 量 kg/a	水 分 含 率 %
		草 丈 cm	稈 長 cm	穂 長 cm	葉 部	茎 部	穂 部			
8月 29日	黄熟 期	68.7	64.2	9.5	21.5	32.9	45.6	124.0	61.5	50.4
9月 14日	糊熟 期	71.2	70.7	6.7	20.4	37.3	41.3	136.0	63.5	53.3
9月 19日	乳熟 期	72.7	72.9	6.4	21.8	44.6	33.6	157.0	65.5	58.3

第2表 サイレージの品質

項目 生育 ステージ	開 封 日	詰 込 量	開 封 時 水 分	サイレージ品質						
				PH	有機酸 %				VB N /T-N	
					総酸	乳酸	酢酸	酪酸		評点
黄熟期	2・13	9.4	50.2	6.65	1.17	0.73	0.44	0	80	7.4
糊熟期	〃	9.4	54.5	5.99	1.69	1.49	0.20	0	100	4.2
乳熟期	〃	9.4	58.2	6.21	1.71	1.50	0.21	0	100	2.4